

第52回沖縄県高等学校野球部対抗競技大会要項

1. 名 称 第52回沖縄県高等学校野球部対抗競技大会
2. 目 的 シーズンオフにおける基礎体力の増強を図り、併せて野球の技術向上に資することを目的とする。
3. 主 催 沖縄県高等学校野球連盟
4. 主 管 沖縄県高等学校野球連盟技術部
5. 期 日 2023年12月16日(土) *雨天時の予備日 2023年12月17日(日)
6. 時 間 午前8時45分より連盟表彰及び諸連絡 9時30分より競技開始
7. 会 場 ①読谷村陸上競技場(表彰、開閉会式、100m、1500m、1800mR、立ち三段跳び)
②読谷村多目的広場(遠投、塁間走)
③読谷村運動広場(打撃、塁間継投)
- 中部・北部地区は午前中①から開始
○那覇・南部地区は午前中②③から開始
※午後は実施場所を入れ替え実施、1800mRは各種目終了後、全体で一斉に行う。
○宮古、八重山は各地区で実施。地区評議員にて運営実施、後日結果報告。
8. 種 目 ①100m ②1500m ③1800mR ④立ち三段跳び ⑤遠投
⑥塁間継投 ⑦塁間走 ⑧打撃
9. 競技内容 ①100m 1チーム9人、1人1回の試技(シューズ履き、スパイク不可)とし、その平均で競う。
- ②1500m 1チーム9人、1人1回の試技とし、その平均で競う。
- ③1800mR 1チーム9人で1人200mの9人による継走、順位は決勝を優先し、決勝順位後は予選のタイム順とする。ただし、離島地区はタイムを順位に反映させる。
- ④立ち三段跳び 1チーム9人による1人3回の試技、3回の試技中最長距離をとり、9人の平均で競う。
- ⑤遠 投 1チーム9人、1人2回の試技で最長距離をとり9人の平均で競う。試技幅15mとし、これよりはずれると記録なしとなる。
(練習は無く試技のみとする)
- ⑥塁間継投 1チーム4人による2回の試技を行い、最短時間を競う。各塁の選手はあらかじめ予備ボール2個保持し、失投の時は予備ボールを、失投した選手の方から送球し継投する。4人中1人でも予備ボールがなくなり継投が継続できなくなった場合は、その回の試技は失格となる。また、送球の際、触塁しない場合は1回につき0.5秒加える。
- *継投順序 ○1.本塁→ 2.一塁→ 3.二塁→ 4.三塁→
5.本塁→ 6.三塁→ 7.二塁→ 8.一塁→
9.本塁→10.二塁→11.三塁→12.一塁→
13.本塁→14.二塁→15.一塁→16.三塁→
17.本塁→18.二塁→19.本塁→20.三塁→21.一塁→
22.本塁→23.二塁→24.本塁→25.一塁→26.三塁→
27.本塁

⑦ 塁間走 9人で1回試技。順序は本塁→1塁→2塁→3塁→本塁と一周。塁の空過は1回につき0.5秒加える。

⑧ 打撃 9人による1人3打とし、最長距離をとる。試技はスタンディンググレイによるバッシングとし出場選手は各チームのヘルメットを着用し、バットは高野連公認の新基準対応バットとする。打撃の際は、助走を禁止する。50m以下は記録なしとする。

10. 申込方法 高野連ホームページより、全種目の記録用紙（エントリー名簿）、各種目別記入用紙（8種目）をダウンロードし、入力方法に従い、選手名を記入し、メールにて、Excelデータで2日前の12月14日（木）17:00までに提出する（技術部部长・川上琢也あて Email: kawakata@open.ed.jp）。当日は、各種目別記録用紙を印刷して再度提出すること（エントリー名簿は訂正がある場合のみ提出）。選手の変更は当日の開会式前まで認めるが、エントリー名簿、各種目別記録用紙を訂正部分を朱書きにて確実に訂正すること。訂正は、用紙のみでよい。データの訂正は不要。

11. 表彰 各種目とも団体3位、個人3位まで表彰する。団体、個人とも3位まで賞状を授与する。各種目とも個人1位には楯を授与する。（県春季大会抽選会場にて表彰を予定）

12. 服装 選手は公式戦のユニホームを基本とする。やむを得ない場合は学校名の入った統一ユニホームも認める。（学校名がはっきり分かること）

13. 用具 ボール、バット、ヘルメット等必要なものは各チームで準備する。但し、大会に必要なボール（遠投、塁間継投用）、用具は本部で準備する。

14. その他 ①宮古、八重山地区は理事で競技を運営し、その記録（タイム系は100分の1秒まで、距離系はcmまで記録）を送付する。

②生徒の弁当は各チームで準備して下さい。弁当業者の配置は予定していません。

③各チームの部長、監督は大会運営にストップウォッチを使用しますので持参して下さい。

④各チームのマネージャーは当日補助員（記録係）として協力して下さい。（筆記用具持参）

⑤競技大会【100m】でのスタートですが、「クラウチングスタイル」で統一します。スタンディングスタートだと静止状態がわかりにくいいため、フライングが多く、競技進行に支障をきたしてしまいました。大会本部でスターティングブロックは設置しませんが、次走者による足の支え（スターティングブロックと同じ）は認めます。学校別に関係なく、お互いで協力するよう部員に伝えて下さい。

⑥競技大会【打撃】での打者の配置ですが、1～3までは左打者、7～9までを右打者となるようお願いします。打球が観客側に飛び込むことがないように配慮したいと思えます。チーム事情で、右あるいは左打者しかない場合は上記の通りでなくて構いません。ファールラインを設けますが、事故などが起きないように事前に監督・部長から選手への指導をお願いします。

⑦今回、競技大会【打撃】では新基準対応バットによる試技とする。新基準対応バットは本部で準備するバットを使用する。従来のバットでの試技は認めない。